

# 近代日本におけるドイツ系商会の経営と貿易

## C. ローデ商会の伊予鉄道への機関車輸入について



日時:

2019年2月1日 (金)

14時～16時

場所:

大阪市立大学文学部  
情報編集室 (L201)

報告者: **裕居 宏枝**

大阪市立大学 UCRC特別研究員  
ルール大学ポーフム 客員研究員

19世紀末、ドイツはイギリス、アメリカに次ぐ日本の貿易相手国へ成長したが、その通商貿易、およびドイツ系商会の活動実態については十分明らかになっていないと言えない。史料が十分でないことから、基本的な経営実態の把握さえも難しいのが現状である。

そのため発表者は、取引商品に着目することによって、ドイツ系商会の通商実態を明らかにする研究をおこなっている。その一つが、鉄道関連資材の視点からの研究である。

こうしたドイツの対日外交文書を利用した研究によって、自由貿易主義のイギリスに対し、保護貿易主義を展開するドイツ政府、公使、領事、商人の独自性とドイツ系商会の調査研究の意義を指摘してきた。

本報告では、伊予鉄道をはじめ日本各地に輸出されたドイツ製Bタンク機関車から、ドイツ系商会経営実態を明らかにしていきたい。